

使用中に正常に作動しなくなった時は、まず本文の「故障とお考えになる前に」を参考にしてチェックして下さい。「処置」を行っても改善が見られない時は、お買い上げ店、又は当社ユーザーサービス係にお申し付け下さい。

保証をお受けになる場合、お買い求め頂いた販売店、もしくはユーザーサービス係に不具合内容を具体的に提示の上、EGS-G2本体とリモコンをセットにして、保証書、車検証のコピーと共に送り下さい。尚、保証範囲につきましても、保証規定をご覧ください。

保証対象外の修理について、保証期間を過ぎた場合や、使用上の不注意による故障等、保証の対象にならない場合の修理については、有償となります。詳しくは、当社ユーザーサービス係までご相談下さい。

リモコンエンジンスターター EGS-G2

MitSuba

リモコンエンジンスターター

EGS-G2

取付・取扱説明書(保証書付)

このたびは、EGS-G2をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。ご使用になる前に、本冊子を必ずお読み頂き、正しくご使用下さい。またお読みになった後も、本冊子は必要な時ご利用出来るように大切に保管して下さい。また、本商品を譲渡される場合や別のお車に取り付け直す場合も、本冊子を必ず商品に付帯させ、お使いになる方がいつでも見られる様にして下さい。本商品は日本国内でのみご使用出来ます。

この取付・取扱説明書では安全上重要な項目に下記のマークを表示しています。各マークの意味は次の通りです。

-  **危険** …… 取扱を誤った場合、死亡又は重傷を負う危険性が高いことを意味します。
-  **警告** …… 取扱を誤った場合、死亡又は重傷を負う可能性が想定されることを意味します。又、法律に違反することを意味します。
-  **注意** …… 取扱を誤った場合、傷害を負う危険が想定されることを意味します。又、商品を損傷、故障させる恐れがあることを意味します。

警告

本商品は、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。分解したり改造したりすることは法律で禁じられていますので、絶対に行わないで下さい。リモコンケースの裏面に貼られている技術基準適合証明ラベルは、はがさないで下さい。このラベルがはがれた状態で使用すると電波法違反となります。

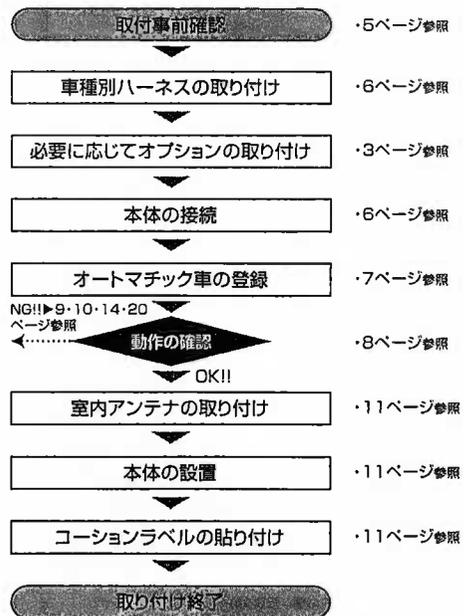
重要

このエンジンスターターを利用する為には、お取り付け後オートマチック車の登録を行う必要があります。又、バッテリー交換や整備等でバッテリー端子を外したりオプション品取付等でBPケーブルを外した場合、オートマチック車の登録情報等*は消去されますので、再度登録する必要があります。詳しくは、本冊子7ページを参照願います。

* 各種設定情報(キー始動学習機能等)も同様に消去されます。

- 取り付け手順 3ページ
- ブザー音について
- モードスイッチについて
- オプション(別売)品のご案内
- パッケージ内容 4ページ
- 取り付けの前に 5ページ
 - 取り付け可能な車の条件
- 車種別専用ハーネスの取り付け 6ページ
- オートマチック車の登録 7ページ
- 動作確認をします 8ページ
 - 動作確認上の不具合における症状別Q&A
- 各種取り付け作業 9ページ
 - L端子検出方式へ変更
 - フットブレーキ検出方式へ変更 10ページ
 - 室内アンテナの取り付け 11ページ
 - 本体の取り付け
 - コーシヨラベルの貼り付け
 - ボンネットスイッチを取り付ける場合 12ページ
 - 運転席側ドアスイッチ配線を行う場合
 - ボンネットスイッチとドアスイッチの 13ページ
両方を取り付ける場合
 - 「ミツバG-System」対応商品を
取り付ける場合
- 各種機能 14ページ
 - キー始動学習機能
 - L端子誤配線チェック機能

- 正しくお使いいただくために 15ページ
 - オートライト装着車について
 - オートチルト装着車について
 - リモコンドアロック装着車について
 - リモコン電波到達距離について
- 使用上の注意 16-17ページ
- 使用方法 18ページ
 - リモコンでエンジン始動
 - リモコンでエンジン停止
 - タイマーで自動停止
 - スリープ機能について
 - アイドリング時間の設定 19ページ
 - 始動パターンのお替 20ページ
- メンテナンス 21ページ
 - 電池の交換方法
 - 本体の電源を切る時は
 - リモコンを紛失した時は
- 故障とお考えになる前に 22ページ
- 仕様 23ページ
- 保証規定
- アフターサービスについて 24ページ
- 保証書



■ 通常使用時の本体ブザー音一覧表 (オートマチック車登録・キー始動学習を除く)

ブザー音	本体のブザーが鳴る場合
ブツブツ	● 本体の電源が入った場合
ブツ	● リモコンによるエンジン始動を自動検出した場合/ ● オルタネーター(L端子)配線が正しい場合。
ブツ	● リモコンでエンジンが始動した場合。
ブザー音	● リモコンでエンジン始動中。 リモコン始動直後から数秒間隔で鳴り始め、残り時間に 運動して徐々に短くなります。 自動停止直前(1分前)は連続音になります。
ブツブツ	● スリープから復帰した場合。
ピーピー	● リモコンでエンジンが始動しない場合。
ピーピーピー	● リモコンでエンジン駆動中にエンストした場合。
ピーピー (繰り返し)	● 車両との相性が悪い(悪くなった)場合。 * ユーザーサービス係へお問い合わせ下さい。 * 警告音はキーをONにすれば停止します。

■ モードスイッチについて

■ 本体モードスイッチメニュー (商品出荷時は全てOFFとなっております)

スイッチ番号	モードメニュー	OFF	ON
1	シフト検出 ※1	自動	キャンセル(通常使用しません) ※フットブレーキへの配線が必要です。
2	始動検出 ※2	当社専用回路にてエンジン始動 状態を検出する。	オルタネーターのL端子線の变化の みで、エンジンの始動状態を検出する。 ※L端子への配線が必要です。

*1...10ページを参照 *2...9ページを参照

■ オプション(別売)品のご案内

適応車種一覧表をよくご覧になり、必要に応じてオプション(別売・取扱説明書付)をご使用下さい。

- **ボンネットスイッチ**
車のボンネットが開いている時に、リモコンでのエンジン始動を
出来なくする安全装置です。
- **ホンダレジェンド用DPSアダプター**
レジェンド(型式KA7~9のDPS装着者)ドライビングポジション
システムのチルトステアリングのAUTO機能を作動させること
が出来ようになります。
- **オートライトアダプター**
トヨタ・日産車のオートライト機能付き車両の一部で、オートライ
トポジションでのリモコン始動を可能にします。
- **キーレスアダプター(ミツバG-System)***
本商品を取り付ける事でエンジンスターターのリモコンによりド
アをLOCK/UNLOCKが出来るようになります。一部の車種で
はモーターキット(別売品)が必要になります。必ず事前に適応車
種一覧表を確認 して下さい。
- **盗難警報機「ガードッグ・プロ タイプS」(ミツバG-System)***
Gシステム対応の盗難警報機「ガードッグ・プロ タイプS」を追
加する事が出来ます。この場合、本商品をリモコンで制御する事
が出来ます。取付にはGシステム接続ケーブル(別売品)が必要
です。
- **Gシステム接続ケーブル(ミツバG-System)***
本商品へGシステム対応のキーレスアダプターや盗難警報機を
接続する事が出来るようになります。
*「ミツバG-System」については13ページを参照して下さい。

このような時	チェックして下さい	処置
リモコンのスタートスイッチを押しても音が鳴らない	・スイッチを押す時間が短くありませんか? ・リモコンの電池は消耗していませんか?	・0.5秒以上スイッチを押して下さい ・電池を新品に交換して下さい
リモコンのスタートスイッチを押してもまったく作動しない	・音(ビピッ)がするまでスタートスイッチを押していますか? ・車のキーがONになっていませんか? ・リモコンのアンテナを伸ばしていますか? ・室内アンテナのアンテナプラグが外れていませんか? ・リモコンの電池は消耗していませんか? ・車両のバッテリー端子が外れていませんか? ・15日以上エンジンの始動を行わない状態でしたか?	・音(ビピッ)がするまで押して下さい ・キーを抜いて下さい ・アンテナを伸ばして下さい ・アンテナプラグを差し込んで下さい ・電池を新品に交換してください ・端子を接続し「オートマチック車の登録」を行って下さい ・スリープモードになっていないか 本体のパワースイッチを一旦切って入れ直すか、キー操作でエンジンを始動させて下さい ・車のバッテリーは弱っていませんか? ・ドアが開いていませんか? (運転席のドアスイッチ記録を行った場合) ・ボンネットが開いていませんか? (別売ボンネットスイッチの記録を行った場合) ・ドアスイッチへの記録(任意)が間違っていないですか? ・フットブレーキへの記録(必要時)が間違っていないですか?
本体から「ブーー、ブーー…」音が鳴っていて、リモコンのスタートボタンを押しても、まったく作動しない	・バッテリー端子を外したり、バッテリー交換を行いましたか? または、ヒューズ交換、専用ハーネスとのカブラ脱着及び黒色アース線の再接続を行いましたか?	・オートマチック車の登録情報が消去されています 再度「オートマチック車の登録」を行って下さい
リモコンのスタートスイッチを押すとメーターパネルは点灯するが始動しない	・車のシフトレバーがPレンジに入っていますか? ・車のバッテリーは弱っていませんか?	・シフトレバーをPレンジに入れて下さい ・車のバッテリーを点検し正常な状態にして下さい
リモコンのスタートスイッチを押すと再始動動作を行うが、エンジンは始動しない	・オルタネーター(L端子)記録を行いましたか? ・車のバッテリーは弱っていませんか?	・オルタネーター(L端子)記録を行って下さい ・車のバッテリーを点検し正常な状態にして下さい
本体の電源が入らない	・本体のヒューズが切れていませんか? ・専用ハーネスのカブラが外れていませんか? ・専用ハーネスの黒色アース線が外れていませんか?	・ヒューズを交換して下さい ・カブラを確実に差し込んで下さい ・黒色アース線を確実に接続して下さい
始動距離が短くなった	・リモコンの電池は消耗していませんか? ・リモコンのアンテナに体の一部が触れていませんか? ・リモコンのアンテナを伸ばしていますか? ・室内アンテナのアンテナプラグが本体から外れていませんか? ・周囲の環境は変化していませんか?	・電池を新品に交換して下さい ・送信の際はアンテナに触れないようにして下さい ・アンテナを伸ばして下さい ・アンテナプラグを差し込んで下さい ・15ページの「リモコン電波到達距離について」を参照して下さい
リモコンのスタートスイッチを押してもエンジンが始動せず、警告音(ビー・・・ビー・・・)が鳴り続ける	・シフトレバーがPレンジに入っていますか? ・車のキーがACCになっていませんか? ・専用ハーネスの品番は正しいですか?	・シフトレバーをPレンジに入れて下さい ・キーを抜いて下さい ・車種別専用ハーネス対応表を再度確認して下さい 車の車種名・年式・型式をハーネス表に照合後、番が正しい場合はユーザーサービス係までお問い合わせ下さい ★警告はキーをONにすれば停止します

●リモコン

■型式名	TX-05M
■技術基準	RCR標準規格 テレコントロール用 無線設備適合
■送信周波数	42.6MHz帯の10波のうち1波使用
■通信方式	単方向通信方式
■送信出力	1mW以下
■電波方式	MSK変調1200bps
■呼出名称	送信時自動送出
■周波数安定度	±4ppm以下
■周波数偏移	±2.5KHz
■スイッチ	スタート/ストップ/ACC
■重量	25g(電池含む)
■送信確認方式	ブザー
■送信時間	3秒以内
■送信休止時間	2秒以上
■送信アンテナ	内蔵ロッドアンテナ
■制御コード	アドレスコード32ビット/ コントロールコード8ビット
■動作温度範囲	-20℃～+60℃
■定格電圧	DC3V
■使用電池	アルカリボタン電池 LR44×2個
■電池寿命	電池交換無しで3000回以上送信可能
■外観寸法	71.5mm(H)×32mm(W)× 12.5mm(D) (突起部除く)

●本体

■型式名	RX-05M
■受信周波数	42.6MHz帯の10波のうち1波使用
■受信感度	-9dbμV以下
■局発安定度	±4ppm以下
■アンテナ	1/4λ室内アンテナ
■動作温度範囲	-20℃～+70℃
■復調コード	アドレスコード32ビット/ コントロールコード8ビット
■電源電圧	最低動作電圧DC8.5V 最高動作電圧DC16V
■パワー系制御電流	突入電流80A 最大電流25A
■外観寸法	32.5mm(H)×120mm(W)×80mm(D) (突起部除く)
■消費電力	通常待機時平均10mA以下 スリープモード時700μA
■始動検出	専用ハーネス(自動) オルタネーターL端子(選択)
■安全対策	パーキングポジション(自動) フットブレーキ(選択) ドア開放(任意)、ボンネット開放(任意)
■ヒューズ	自動車用ブレードヒューズ25A
■タイマー	20分後自動停止(設定により10分/30分変更可能)
■重量	140g

※この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

〈保証規定〉

本商品は、厳重な品質管理のもとに製造され、検査に合格し、出荷されておりますが、お客様の正常な状態での使用中、万一故障が発生した場合には、本保証書に記載の内容に基づき、無償修理をさせていただきます。

●修理は、お買い求め頂いた販売店に、本保証書および不具合内容等を記入したメモ等を添えてご依頼願います。また、修理の際は必ずリモコンと本体をセットでお渡ください。(リモコンのみでは修理できません)

●本保証書は日本国内に於いてのみ有効です。This warranty is valid only in Japan.

●本保証書は再発行いたしませんので、大切に保管してください。

尚、下記に該当する場合は、保証期間内であっても保証の対象とはなりませんのでご注意ください。

- 1.お客様の故意または過失による故障と認められた場合。
- 2.商品を分解したり改造したりした形跡が認められた場合。
- 3.火災、天災、事故、その他紛争等による損傷。
- 4.適応外車両へのお取り付けや当社専用ハーネスをお使いになっていない場合。
- 5.取付・取扱説明書中の注意事項を守られなかったことにより発生した故障、損害等。
- 6.保証書の添付がないか、あるいは記載事項に不足がある場合。

●消耗部品(電池、アンテナ等)やリモコンのケース破損は保証対象外です。

●修理によって生じた交換部品は原則としてお返しいたしません。

●本商品の製造終了後5年以降は使用電子部品の製造中止等により修理不能になる場合がありますので予めご了承ください。

※保証期間経過後の修理については、当社ユーザーサービス係までご相談ください。

修理によって機能の維持が可能な場合は、お客様のご要望により有償修理致します。

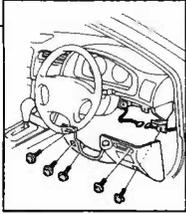
ステップ1 キースイッチの配線カプラーを探します。

配線カプラーの位置は大別すると次の4タイプになります。詳しくは車種別専用ハーネス適応表をご参照下さい。

メモ キースイッチの配線カプラーは基本的には車種別専用ハーネスのカプラーと同形状なので、それを目安して下さい。

タイプ1

●アンダーカバーを外し、キーシリンダーに直接接続されているか、もしくはキーシリンダー直近に位置しているタイプ。



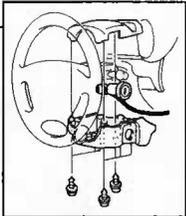
専用ハーネス例

T001	T002	T005
T006	N022	N025
M065	S071	

メモ アンダーカバーを外す際、車種によってはスピーカーカーカバー内や、コインポケット等に隠しネジが付いている場合があります。

タイプ2

●ステアリングコラムカバーを外し、キーシリンダーに直接接続されているか、もしくはキーシリンダー直近に位置しているタイプ。



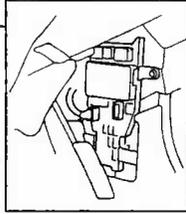
専用ハーネス例

T003	T004	N023
M067	D082	

メモ ステアリングコラムカバーを外す際、車種によってはステアリングを90度位置しないとネジが外せない場合があります。

タイプ3

●ヒューズボックスやジャンクションブロックに直接、接続されているタイプ。



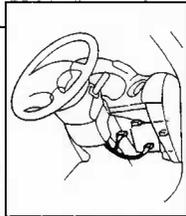
専用ハーネス例

T008	H046	H048
H049		

メモ ホンダ車の場合、アクセルペダル横のヒューズボックス内に接続されている場合もあります。

タイプ4

●配線カプラーが2箇所に分かれているタイプ。それぞれの位置が離れているものもあります。



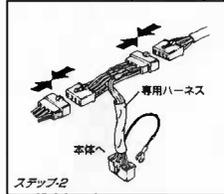
専用ハーネス例

H041	H043	H044
H045	H047	D083
A093	A094	

ステップ2 専用ハーネスを接続します。

発見したキースイッチの配線カプラーを一旦外します。車種別専用ハーネスを、外したカプラーの間に割り込ませます。

注意 カプラーの接続は振動で外れないように、最後まで確実に差し込んで下さい。本体がうまく作動しない事があります。

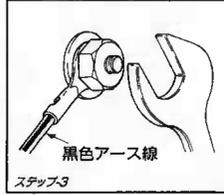


ステップ2

ステップ3 アース線を接続します。

車種別専用ハーネスから出ている、黒色アース線を車体の金属部分に確実に締め付けます。これにより間接的にバッテリーのマイナスに接続されます。接続箇所を充分確認の上、適正な場所に接続して下さい。

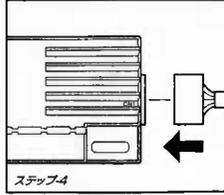
注意 塗装されている金属部分や、車の振動等で緩んでしまう場所に取り付けないで下さい。動作が不安定となり、オートマチック車の登録情報が消去されたり、エンジン始動しない等の不具合が生じます。



ステップ3

ステップ4 本体を接続します。

本体のコネクター部(CN1)と専用ハーネス先端コネクター部を8Pケーブルで接続します。



ステップ4

OK! 以上で本体へのハーネス接続は終了です。

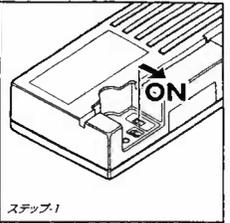
次に必ずオートマチック車の登録をして下さい。

登録作業中はエンジンを始動させないで下さい。誤って始動させた場合、ステップ1からやり直して下さい。

ステップ1 本体のパワースイッチをONにします。

この時本体から、プーブー、プーブー…と断続音が鳴り続けます。

メモ ブザーが鳴らない場合は、アースが確実に取れているか、またハーネスの品番が間違っていないか、再確認して下さい。

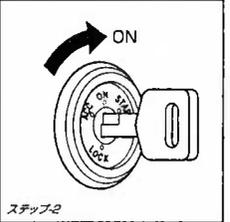


ステップ1

ステップ2 キーをさし込み、ONの位置にします。

この時、本体からでる断続音が、プブッ プブッ…の2連音へと変化します。

メモ この時、誤ってエンジンを始動させないで下さい。もし始動させた場合、ステップ1からやり直して下さい。

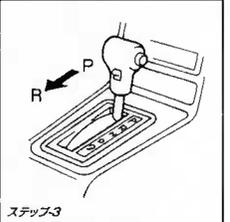


ステップ2

ステップ3 シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かします。

本体からでる断続音が、プブッ プブッ…3連音へと変化します。

メモ シフト操作は、ブレーキを踏んでゆっくり操作して下さい。断続音に変化する事を必ず確認して下さい。断続音に変化しない場合は一度作業を中断し、専用ハーネス付属の「専用ハーネス接続時の注意事項」を確認して下さい。(追加配線を行う必要があります。)尚、追加配線後はステップ1からやり直して下さい。

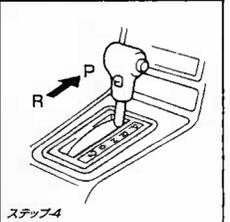


ステップ3

ステップ4 シフトレバーをRレンジからPレンジへと戻します。

この時、本体からプブッ プーと音が鳴り、オートマチック車の登録が終わった事を知らせて鳴り止みます。

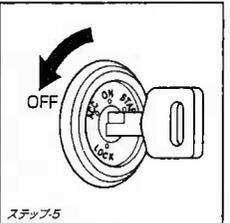
メモ ・車によってはLOCKの位置になります。
・車両のバッテリーを外したり専用ハーネス(アース線)を外すとオートマチック車の登録情報が消去されます。この場合には再度オートマチック車の登録を行って下さい。



ステップ4

ステップ5 キーをOFFの位置に戻し抜き取ります。

OK! 以上でオートマチック車の登録は終了です。



ステップ5

ステップ6... キーを抜いて、リモコンスタートボタンを押して重かに確認してみてください。

動作確認をします

8

シフトレバーは、必ずPレンジにして下さい。

ステップ1 リモコンのスタートスイッチを押します。

リモコンのロッドアンテナを最後まで引き出して、スタートスイッチ音(ピピッ)が鳴るまで押し続けます。

注意 周囲の安全を確認の上、サイドブレーキをしっかりと引いて下さい。重大事故につながる恐れがあります。

ステップ2 車のエンジンが始動します。

本体が信号を受信すると、車のメーターパネルが点灯します。そして数秒後にスターターが廻りエンジンが始動します。エンジン始動後は、本体から警告音(ブツ)が数秒間隔で鳴り続けます。一度で始動しない場合は、その後2回のリトライ(再始動)動作を行います。

メモ 一部のデジタルメーター搭載車ではリモコン始動後少し遅れてメーターパネルが点灯することがあります。

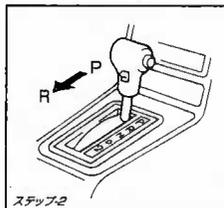
ステップ3 シフトセンサーの確認をします。

リモコンでエンジンが始動した後、キーを差さずにフットブレーキをしっかりと踏みながら、シフトレバーをゆっくりとPレンジからRレンジへと動かします。この時エンジンが止まる事を確認します。

メモ 車種によっては、キーを差さないとシフトレバーが動かせないものもあります。その場合は、キーをACCの位置まで廻して確認して下さい。



ステップ1



ステップ2

動作確認上の不具合における症状別Q&A

症状

Q. エンジンは始動しているのに数秒で停止してしまい、自動的に再始動(リトライ)が行われてしまったりエンジンは始動していないのにメーターパネルが点灯したままになってしまうのですが…?

L端子検出へ変更

A. エンジンの自動始動検出が、うまく行われていないと考えられます。詳しくは、9ページの「L端子検出方式へ変更」を参照して下さい。

症状

Q. 寒冷時に始動がうまく行われないのですが…?

始動パターン切替

A. 一部のディーゼル車等でグロー(予熱)時間が足りない事が考えられます。詳しくは、20ページの「始動パターンの切替」を参照して下さい。

症状

Q. セルモーターの駆動時間が短いために、1回目のセル駆動でエンジンがかからず、リトライしてしまうのですが…?

セル時間延長

A. セルモーターの駆動時間を学習させることが出来ます。詳しくは、14ページの「キー始動学習機能」を参照して下さい。

症状

Q. リモコン始動後にABS警告灯が消灯しないのですが…?

ABS警告灯対応

A. キー始動学習を行う事で警告灯が消灯するようになります。詳しくは、14ページの「キー始動学習機能」を参照して下さい。

症状

Q. リモコンでエンジン始動後、シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かしてもエンジンが停止しないのですが…?

フットブレーキ検出

A. オートマチックシフトの検出がうまく行われていないと考えられます。詳しくは、10ページの「フットブレーキ検出方式へ変更」を参照して下さい。

OK!

以上で動作確認は終了です。

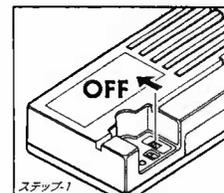
各種取り付け作業

9

L端子検出方式へ変更

ステップ1 一旦、本体のパワースイッチを切ります。

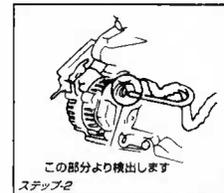
既に付属の安全センサーケーブルが本体に接続されている場合は、一旦外してから作業を行って下さい。



ステップ1

ステップ2 車両のオルタネーターから出ているL端子線を探します。

L端子線とは、イグニッションONの位置でエンジンが停止している時、約1~3V、エンジンが駆動している時12~14Vになる線です。(必ずテスターをご使用下さい。)

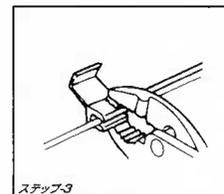


ステップ2

メモ 車両によって室内からL端子線をとれる車もあります。詳しくは当社ユーザーサービス係までお問い合わせ下さい。

ステップ3 安全センサーケーブルの灰色線を接続します。

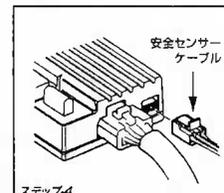
安全センサーケーブルの灰色線を車室内からグロメット等を利用して、エンジンルームに引き込み、オルタネーターから出ているL端子線に付属のエレクトロタップで接続します。



ステップ3

注意 接触不良が起きない様に確実に取り付けして下さい。灰色線がボディの金属部分に触れると、ショートを起こし車両故障の原因となる恐れがあります。

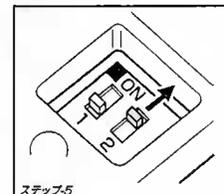
ステップ4 安全センサーケーブルを本体のコネクター部(CN2)に接続します。



ステップ4

ステップ5 本体モードスイッチの2番をONにします。

スイッチが小さい為、ボールペンの先端等で行って下さい。



ステップ5

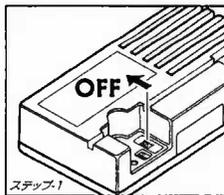
OK!

以上L端子配線は終了です。

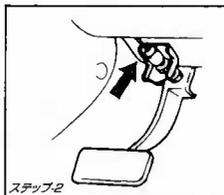
パワースイッチをONにしてリモコンで問題なくエンジン始動出来る事を確認して下さい。L端子配線が正しく接続されているか確認する事が出来ます。確認する場合は14ページの「L端子配線チェック機能」に進んで下さい。尚、この機能は「モードスイッチの2番がON」の時のみ行う事が出来ます。

■フットブレーキ検出方式へ変更

ステップ1 一旦、本体のパワースイッチを切ります。
既に付属の安全センサーケーブルが本体に接続されている場合は、一旦外してから作業を行って下さい。

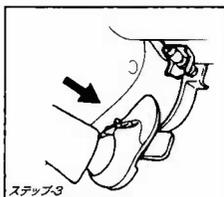


ステップ2 車のフットブレーキスイッチを探します。
フットブレーキスイッチはブレーキペダルの根元付近にあります。



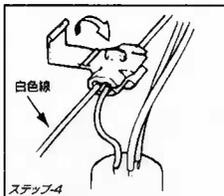
メモ フットブレーキとは、フット式パーキングブレーキの事ではありません。

ステップ3 ブレーキペダルを踏んだとき12Vになる線を見つけます。
フットブレーキスイッチから出ている線の内、ブレーキペダルを踏まない時は0V、踏んだときに12Vになる線を見つけて下さい。
(必ずテスターをご使用下さい。)



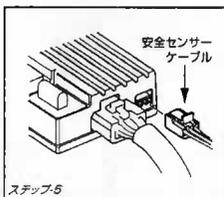
メモ ストップランプを点灯させるための線です。

ステップ4 安全センサーケーブルの白色線を接続します。
安全センサーケーブルの白色線を、ステップ3で見つけた線に、付属のエレクトロタップで接続します。



注意 接触不良が起きない様に確実に取り付けて下さい。フットブレーキ検出がうまく行なわれない場合があります。

ステップ5 安全センサーケーブルを本体のコネクター部 (CN2) に接続します。
モードスイッチの1番をONにします。

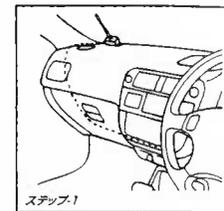


ステップ6 本体モードスイッチの1番をONにします。
スイッチが小さい為、ボールペンの先端等で行って下さい。

OK! 以上でフットブレーキ検出への変更は終了です。
パワースイッチをONにしてリモコンでエンジンを始動させ、フットブレーキを踏んだ時にエンジンが停止する事を確認して下さい。

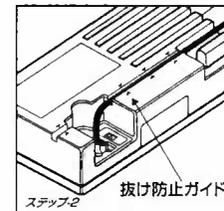
■室内アンテナの取り付け

ステップ1 室内アンテナを設置します。
ダッシュボードのサイドビラーから10cm以上離し、出来るだけフロントガラスに近い平らな場所に設置して下さい。



警告 エアバッグ装着車は、エアバッグカバー部には固定しないで下さい。エアバッグ作動時にケガをする恐れがあります。室内アンテナは、運転の妨げにならない場所に設置して下さい。アンテナを手前寄りに取り付けた場合、急ブレーキ等によりアンテナに顔をぶつけてケガをする恐れがあります。ガラス面に近い場所にしっかりと固定して下さい。

ステップ2 本体のアンテナジャックにアンテナ線を差し込みます。
アンテナジャックに差した後、抜け防止ガイドにアンテナ線を固定して下さい。



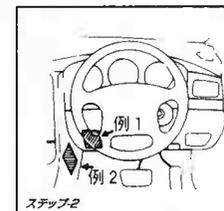
■本体の取り付け

ステップ1 配線したケーブル類を整理します。
これまでに配線した、ケーブル類、アンテナ線等をビニールテープや付属の結束バンド等で確実に固定して下さい。また接続していないギボシ端子は、ビニールテープ等で絶縁して下さい。

警告 配線類が狭み込まれたりすると、断線やショートの原因となり、本体や車両の故障、さらには車両火災を起こす可能性があります。

ステップ2 本体を設置します。
本体を運転操作の邪魔にならない場所に、付属の両面テープ等を使用して設置します。

注意 本体は、直射日光の当たる場所、エアコンの吹き出し口等の高温になる場所や足下の水の跳ね返りや外部からの水に触れる場所には設置しないで下さい。



ステップ3 外したアンダーカバー等を元に戻します。

■コーションラベルの貼り付け

エンジンルーム内の目立つ場所に貼って下さい。貼り付ける際には汚れや油分等をきれいに除去して下さい。

危険 ボンネットを開けて作業している際に、誤って始動操作が行われると大変危険です。必ず目立つ場所に貼って下さい。

OK! 以上で取り付けは終了です。

■ボンネットスイッチを取り付ける場合

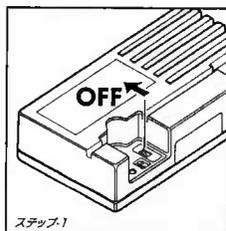
ボンネットスイッチ(別売)の取り付けを行うことにより、ボンネットが開いている時のリモコンでのエンジン始動が出来なくなり、エンジンルーム内での各種作業中の安全を確保出来ます。出来るだけボンネットスイッチの取り付けを行って下さい。取り付けに関しては、ボンネットスイッチに付属の取扱説明書をよくお読み下さい。

■運転席側ドアスイッチ配線を行う場合

ドアスイッチへの配線を行う事により、リモコンでのアイドル中に、ドアを開けるとエンジンを停止させる事が出来ます。

ステップ1 本体のパワースイッチを切ってください。

既に付属の安全センサーケーブルが本体に接続されている場合は、一旦外してから作業を行ってください。

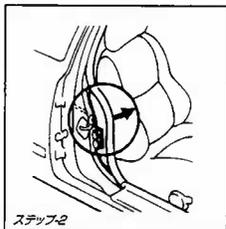


ステップ1

ステップ2 ドアスイッチ線を探します。

ドアを開けた時は0V、閉めた時に12Vとなる線です。(必ずテスターをご使用下さい)

メモ 半ドア警告灯および、ルームランプの点灯をさせる為のスイッチです。

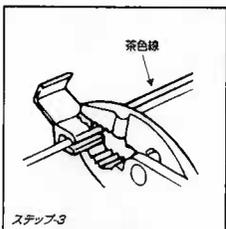


ステップ2

ステップ3 安全センサーケーブルの茶色線を接続します。

安全センサーケーブルの茶色線は、ボンネットスイッチと共用になっています。安全センサーケーブルの茶色線先端のギボシ端子部をニッパ等でカットし、ステップ2で見つけた線に、付属のエレクトロタップで接続します。

注意 接触不良が起きない様に確実に取り付けして下さい。ドアスイッチ検出がうまく行かない場合があります。

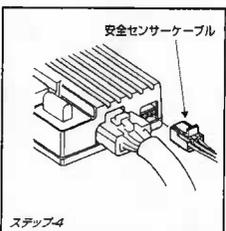


ステップ3

ステップ4 安全センサーケーブルを本体のコネクター部(CN2)に接続します。

OK! 以上でドアスイッチ配線は終了です。

パワースイッチをONにしてリモコンでエンジンを始動させ、ドアを開けた時にエンジンが停止する事を確認して下さい。



ステップ4

■ボンネットスイッチとドアスイッチの両方を取り付ける場合

ボンネットスイッチ(別売品)とドアスイッチの両方の配線取り付けを行う事で、ボンネットが開いたり、ドアが開いたりしている時は、エンジンが動作しないよう安全確保が出来るようになります。



注意

安全センサーケーブルの茶色線は、ボンネットスイッチとドアスイッチを併用するようになっております。両方を配線する場合には別途エレクトロタップを1個ご用意頂く事になりますので、あらかじめお買い求め下さい。
【推奨品:自動車用低電圧線(AV線)0.5mm²サイズ適応品】又、両方の取り付けの場合、ボンネットを開けた時、半ドア警告灯及びルームランプが点灯する必要があります。これは本商品が車両側の安全検出を行う回路により点灯するものであり、商品の故障等ではありません。



ステップ1 運転席側ドアスイッチ配線をして下さい。

「運転席側ドアスイッチ配線を行う場合」の作業をステップ3まで行った後、以下の作業を行ってください。



ステップ2 ボンネットスイッチを取り付けます。

ボンネットスイッチに付属の取扱説明書をよく読み、エンジンルーム内のボンネットスイッチ設置・取り付け作業まで行って下さい。



ステップ3 安全センサーケーブルの茶色線を接続します。

ボンネットスイッチの茶色線をエンジンルーム内からグローメット等を利用して車室内へ引き込み、先端のギボシ端子部をニッパ等でカットします。既にドアスイッチ配線をした安全センサーケーブルの茶色線にご用意頂いたエレクトロタップ等で接続します。



注意

接触不良が起きない様に確実に取り付けして下さい。ボンネットスイッチ検出がうまく行かない場合があります。



ステップ4 安全センサーケーブルを本体のコネクター部(CN2)に接続します。

ステップ2で途中となっていたボンネットスイッチの取り付け作業も完了させて下さい。



OK! 以上でボンネットスイッチとドアスイッチ配線作業は終了です。

パワースイッチをONにして、リモコンでエンジンを始動させ、ドアを開けた時にエンジンが停止する事とボンネットを開けた時にエンジンが停止する事を確認して下さい。

■「ミツバG-System」対応商品を取り付ける場合

本商品は、「ミツバG-System」対応の盗難警報機やキーレスアダプターを取り付ける事で、リモコン操作による盗難警報機の制御や、ドアのLOCK/UNLOCKを行う事が出来ます。お取り付けには、「ミツバG-System」商品に付属の取扱説明書をよく読んで行って下さい。一部の車種ではお取り付け出来ない場合もあります。必ず車種別適応一覧表でご確認下さい。



「ミツバG-System」とは、対応商品どうしを組合わせることにより、プラスアルファの機能が実現出来るように設計されたグレードアップ対応システム商品です。今後、「ミツバG-System」対応商品を随時発売する予定になっています。「ミツバG-System」対応商品を追加接続する場合、別売りの接続ハーネスが必要となる場合があります。接続及び取扱いに関する詳細については、別途、接続ハーネスの取扱説明書をよくご覧下さい。



注意

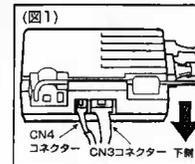
- 「ミツバG-System」対応商品を取り付ける場合、本体のリッドを外す必要があります。必ず本体のパワースイッチを切って8Pケーブルを取り外してからリッドを外して下さい。そのまま作業しますと、電源ショート等により、故障したり発火する恐れがあります。
- リッドの取り外しには、精密ドライバー等で端からはがすように取り外して下さい。その際ケガをしないように充分注意して行って下さい。※それ以外ではリッドは絶対に外さないで下さい。
- 「ミツバG-System」対応商品を取り付けた後、本体を設置する場合は、本体のCN3、CN4コネクタ面が必ず下を向くようにし、異物が入らない様にして下さい。(図1)

■本商品のリモコンで「ミツバG-System」対応商品进行操作する場合。

リモコンのACCスイッチを押すことで制御出来ます。リモコンのACCスイッチは押す毎に「ビー・ビー」と「ビビビビ」の発信音を交互に繰り返します。

■各操作の一例

発信音	「ビー・ビー」の時	「ビビビビ」の時
盗難警報機	警報セット	警報リセット
キーレスアダプター	ドアLOCK	ドアUNLOCK



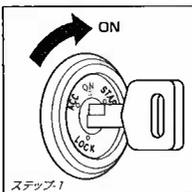
キーが「ON」の位置になっている時は、ACCスイッチによる操作は受け付けません。又、本体のパワースイッチを切っている時や、スリープ機能が働いている時は、ACCスイッチによる操作は受け付けません。

■キー始動学習機能(キー始動学習機能の設定方法)

リモコン始動時にABS警告灯が点灯する場合や、スターターモーター駆動時間を変更する場合は、キー始動学習を行って下さい。
(エンジン停止状態から始めて下さい。)

ステップ1 キーをONの位置にします。

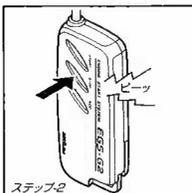
注意 この時、誤ってエンジンを始動させないで下さい。
以降の操作が出来ません。



ステップ1

ステップ2 上記操作後10秒以内にリモコンのストップスイッチを押します。

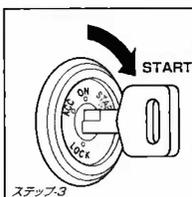
本体から断続音ブッ ブッ…(2連音)が鳴ります。10秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。リモコンのスイッチは反応音があったら離して下さい。押し続けると、2~3秒後に再度ストップ信号が送信され、以降の操作が出来なくなります。



ステップ2

ステップ3 上記操作後30秒以内にキー操作でエンジンを始動します。

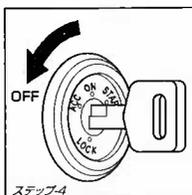
本体からブブッ ブーと音が鳴りキー始動学習が行われた事を知らせ、鳴り止みます。この時にスターターモーター駆動時間を「0.8~2.5秒」の範囲で学習し、以降リモコン始動時のスターターモーター駆動時間になります。よって、通常使用時と同環境下で学習操作を行うと効果的です。
30秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。
(本体からピーピーという警告音がします)
キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。



ステップ3

ステップ4 キーをOFFの位置にします。

OK! 以上でキー始動学習機能の設定は終了です。



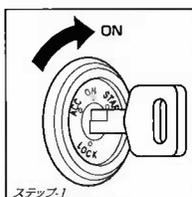
ステップ4

■L端子誤配線チェック機能

本商品には、L端子配線を行った際、接続したL端子が正しいか否かを、本体の「CHGランプ」の点灯状態で確認する事が出来ます。尚、この機能は「モードスイッチの2番がONの時」にのみ行う事が出来ます。

ステップ1 キーをONの位置にします。

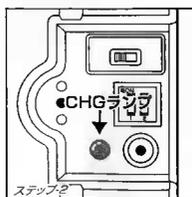
この時本体の「CHGランプ」が点灯する事を確認します。「CHGランプ」が点灯しない場合、L端子配線の接続先の間違いや接触不良が考えられます。配線先を見直して下さい。



ステップ1

ステップ2 上記操作後30秒以内にキー操作でエンジンを始動します。

エンジンが始動すると同時に「CHGランプ」が消灯すれば、L端子配線の接続先は正しく配線されています。「CHGランプ」が消灯しない場合、L端子配線の接続先が間違っていると考えられますので配線先を見直して下さい。尚、30秒以内に操作が完了しないと、確認は出来ません。(本体からピーピーという警告音がします。)キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。

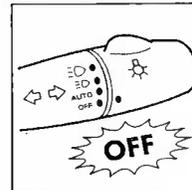


ステップ2

OK! 以上でL端子誤配線チェックは終了です。

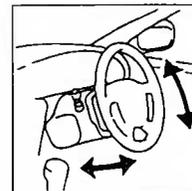
■オートライト装着車について。

オートライト装着車に取り付けの場合、オート状態のまま夜間にリモコンにてエンジンを始動すると、車のライトが点灯してしまい、リモコン停止や自動停止後に消灯しません。
そのためバッテリー上がりの原因となりますので、ライトスイッチはOFFの状態でご使用下さい。
一部のトヨタ・日産車では「オートライトアダプター」(別売品)をお取り付け頂くことで、オート状態でも使用出来るようになります。



■オートチルト装着車について。

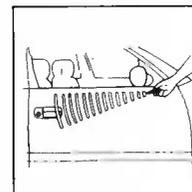
オートチルト及びマイコンプリセットステアリング装着車にお取り付けの場合、リモコンでのアイドリング中に、車のキーを差し込んでもステアリング機能は働きません。エンジンを止めて、再度キーを使ってエンジン始動を行って下さい。



メモ ドアスイッチ配線を行う事で、ドアを開けると同時にエンジンを停止させる事も出来ます。詳しくは12ページを参照して下さい。

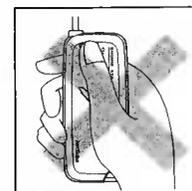
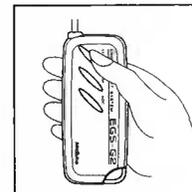
■リモコンドアロック装着車について。

リモコンドアロック及びキーレスエントリー装着車では、エンジン駆動中(リモコンでのエンジン駆動も含む)純正リモコンによるドアロック・アンロックの操作が出来なくなる車種がありますので、一度エンジンを止めるか、キーでドアを開けて下さい。
「キーレスアダプター」(ミツバG-System:別売品)をお取り付け頂く事で、本商品リモコンのACCスイッチでドアロック・アンロックが出来るようになります。
(但し、一部の車両を除きます。必ず適応車種一覧表でご確認下さい。)

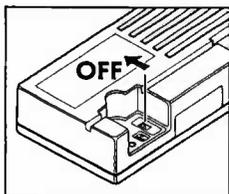


■リモコン電波到達距離について。

電波到達距離は、周囲の環境、室内アンテナの設置状態、リモコンの扱い方等によって変化します。一般的に建物内や周囲に鉄筋コンクリートの建築物があったり、高圧送電線や大出力の無線等のノイズ発生源があったりすると到達距離は短くなります。又、送信時にリモコンを手等で覆うと短くなりますので、ご注意ください。

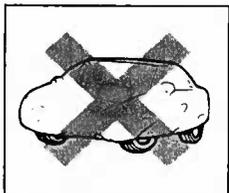


危険

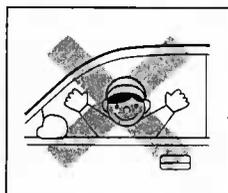


下記の場合には、パワースイッチを切って下さい。
事故の恐れがあります。

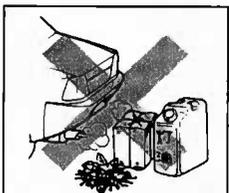
- 整備、車検等を行なう場合。
- 整備、車検等で車を預ける場合。
- 当商品の取り扱い方を知らない方が運転する場合。



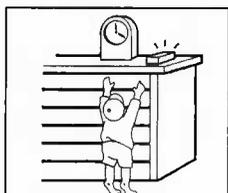
車にボディカバー等を掛けたままで使用しないでください。火災の恐れがあります。



人(特にお子様)やペットが車内にいる時は、絶対にエンジンを始動しないで下さい。お子様による車両の操作やペットの思わぬ動きが重大事故につながる恐れがあります。



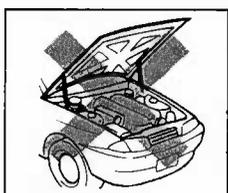
リモコンでエンジンを始動する時は、車の近くに燃えやすい物がないことを確認してください。火災の恐れがあります。



リモコンは、お子様の手の届く所には、置かないで下さい。事故の恐れがあります。

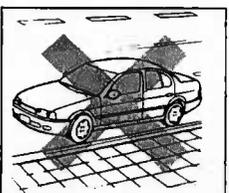


密閉されたガレージ内では使用しないで下さい。排気ガスが充満して危険です。

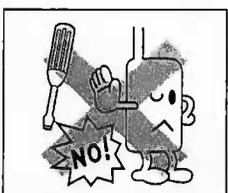


ボンネットを開ける時は本体のパワースイッチを切ってください。安全のため別売のボンネットスイッチの取り付けをお勧めします。事故の恐れがあります。

警告



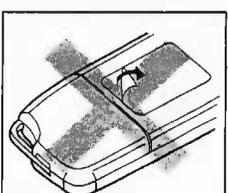
公道上では使用しないでください。公道上での使用は違法となります。



この商品は特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けております。分解・改造することは法律で禁じられていますので絶対しないで下さい。

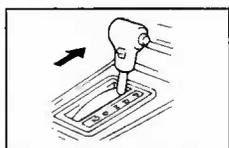


リモコン本体が汚れた場合は、濡れた中性洗剤をしみ込ませた布をよくしぼってふき、乾いた布でもう一度ふいてください。ベンジン、シンナー等は絶対に使用しないでください。変形、変色や事故の原因となります。

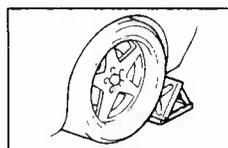


リモコン裏面のラベルをはがしたり、ラベルの無いものを使用することは法律で禁じられていますので絶対しないで下さい。

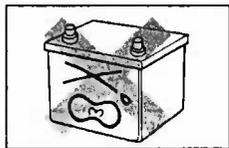
注意



シフトレバーは必ずPレンジに入れて使用して下さい。Nレンジでは使用しないで下さい。パーキングブレーキは、必ずかけて下さい。



斜面で使用される場合は、必ず輪止めをして下さい。



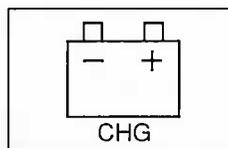
バッテリーの弱っている車や改造車では、正常にエンジン始動できない場合があります。



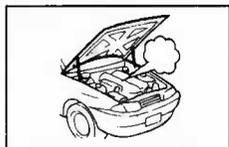
ターボタイマー
他社製盗難警報機、エンジンスターターやターボタイマーとの併用は、絶対しないで下さい。故障や誤動作の原因となります。



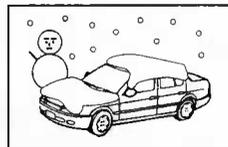
環境保護のため必要以上のアイドリングは行わないで下さい。



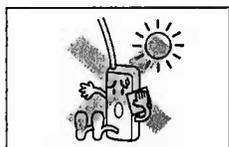
キーでエンジンを始動した後に、充電警告灯が消えない車両は、エンジンスターターを使用せずに車両の点検整備をして下さい。



暖気運転を行った直後に運行前点検を行うと火傷をする恐れがあります。ご注意ください。



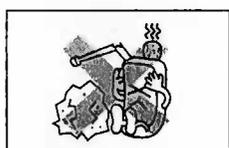
寒冷地では、エンジンがかりにくいことがあります。キー操作のみで2.5秒以内にエンジンが始動するように車両を整備して下さい。



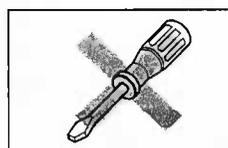
リモコンは、高温になる場所には放置しないで下さい。変形、変色や故障の原因となります。



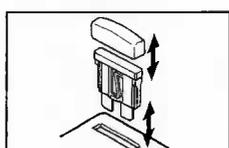
リモコン、及び本体は水に濡らさないで下さい。衣類のポケット等に入れたまま、洗濯しないように充分ご注意ください。故障の原因となります。



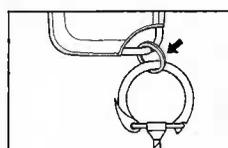
リモコンは落としたり、硬い物にぶつけないで下さい。また、アンテナは無理な力で引き伸ばしたり、収納したりしないで下さい。故障の原因となります。



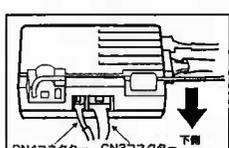
本体の内部に異物を入れないで下さい。又、分解、改造は絶対しないで下さい。故障の原因となります。



ヒューズ切れの直後はヒューズ部が高熱となりますので、交換には注意して下さい。又、交換作業後はヒューズキャップを必ずつけて下さい。尚、一部車種については動作中、ヒューズ周辺の温度が上がる場合がありますのでご注意ください。



リモコン本体にキーホルダー等を取り付ける場合は、必ず付属のホルダーリングをご使用下さい。破損の原因となります。



本体のケーブル接続端子部に、ドライバー等の金属を接触させたり、異物を入れたりしないで下さい。内部でショートし発火する恐れがあります。オプション品の取り付け等で、リッドを外した場合には、本体のCN3・CN4のコネクタ面が下を向くように設置して下さい。

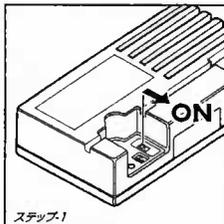
■リモコンでエンジン始動

ステップ1 本体のパワースイッチをONにします。
本体からブブブッ(3回)と確認音がします。



注意

降車時に下記の事を確認して下さい。
1.パーキングブレーキを確実にかける。
2.シフトレバーはPレンジに入れる。
3.必要に応じてエアコン(ヒーター)をセットする。
4.キーを抜く。



ステップ1

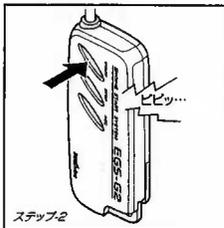
ステップ2 リモコンでエンジンを始動します。

リモコンのロッドアンテナを、最後まで引き出して、スタートスイッチを音(ビビッ)が鳴るまで押し続けます。数秒後、スターターが回りエンジンが始動します。一度で始動しない場合は、3回まで自動的に再始動(リトライ)します。



メモ

リモコンによるエンジン駆動中は、リモコン始動直後から数秒間隔で鳴り始め、残り時間に運動して徐々に短くなり、自動停止1分前は連続音へと変わり、使用者にキー以外のエンジン始動を知らせます。



ステップ2

ステップ3 走行します。

車のキーを差し込み、ONの位置まで廻して下さい。あとは通常通り走行出来ます。尚、ドアスイッチへの配線を行っている場合、ドアを開けるとエンジンは停止しますので、キーにて再度エンジン始動して下さい。



注意

キーを廻す際に、誤ってSTART(STT)の位置まで廻すとスターターを傷めます。

■リモコンでエンジン停止

リモコン始動後は、リモコンのストップスイッチを音(ビーッ)が鳴るまで押し続ける事で、直ちにエンジンを停止させることが出来ます。

■タイマーで自動停止

始動後約20分で(初期状態)でエンジンは自動停止します。自動停止時間は「10分/20分/30分」に変更することが出来ます。詳しくは19ページの「アイドリング時間の設定」を参照して下さい。

■スリープ機能について

車を使用しない状態が15日間以上続くと、バッテリーの消耗を抑えるスリープ機能が働きます。スリープ機能が働くと、リモコンによるエンジン始動は出来ません。スリープ機能を解除するときは、本体のパワースイッチを一度切っ入れておすか、キーを使ってエンジンを始動させて下さい。

■アイドリング時間の設定

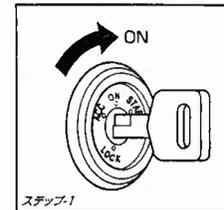
本商品は、リモコン始動の自動停止時間を「10分/20分/30分」のいずれかに変更することが出来ます。お取り付け時(初期状態)のアイドリング時間は「20分」です。

ステップ1 キーをONの位置にします。



注意

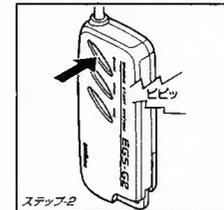
この時、誤ってエンジンを始動させないで下さい。以降の操作が出来ません。



ステップ1

ステップ2 10秒以内にリモコンのスタートスイッチを押します。

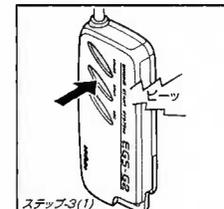
本体から断続音ブブブブブ(3連音)が鳴ります。10秒以内に操作が完了しない場合は設定できません。リモコンのスイッチは反応音があったら離して下さい。押し続けると、2~3秒後に再度スタート信号が送信され、「30分」に設定されます。



ステップ2

ステップ3 30秒以内に次の操作を行います。

リモコンのストップスイッチを押してから30秒経過してしまった場合は、本体からビービーという警告音がして、その後の操作が無効になります。キーをOFFに戻しステップ1からやり直して下さい。



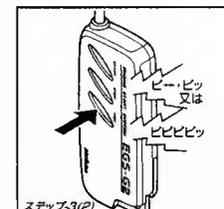
ステップ3(1)

(1)「10分」に設定する場合。

リモコンのストップスイッチを押します。
本体からブーという音がして、「10分」が設定されたことを知らせ、鳴り止みます。

(2)「20分」に設定する場合。

リモコンのACCスイッチを押します。
本体からブーブーという音がして、「20分」が設定されたことを知らせ、鳴り止みます。

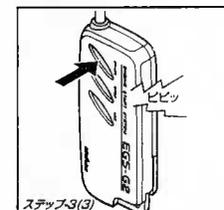


ステップ3(2)

メモ リモコンのACCスイッチは押す毎に、ビー・ビッとビビビ音が交互に鳴ります。

(3)「30分」に設定する場合。

リモコンのスタートスイッチを押します。
本体からブーブーという音がして、「30分」が設定されたことを知らせ、鳴り止みます。

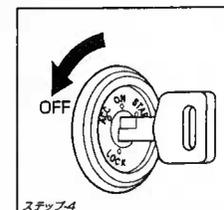


ステップ3(3)

ステップ4 キーをOFFの位置にします。



以上でアイドリング時間の設定終了です。



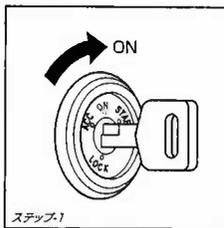
ステップ4

■始動パターンの切替

一部のディーゼル車等で、グロー(予熱時間)が必要な場合、以下の操作をする事によりグローを設定する事が出来ます。グローは6秒です。お取り付け時はグローが解除された時間です。

ステップ1 キーをONの位置にします。

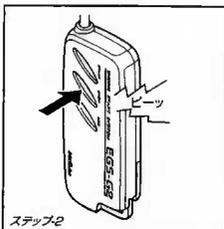
注意 この時、誤ってエンジンを始動させないで下さい。以降の操作が出来ません。



ステップ1

ステップ2 10秒以内にリモコンのストップスイッチを押します。

本体から断続音ブツ ブツ・・・(2連音)が鳴ります。10秒以内に操作が完了しない場合は設定できません。リモコンのスイッチは反応音があったら離して下さい。押し続けると、2~3秒後に再度ストップ信号が送信され、以降の操作が出来なくなります。



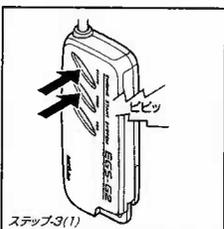
ステップ2

ステップ3 30秒以内に次の操作を行います。

リモコンのストップスイッチを押してから30秒経過してしまった場合は、本体からピーピーという警告音がして、その後の操作が無効になります。キーをOFFに戻しステップ1からやり直して下さい。

(1)「グロー(予熱時間)」を設定する場合。

リモコンのスタートスイッチとストップスイッチを同時に押します。本体からブーピーという音がして、グローが設定されたことを知らせ、鳴り止みます。

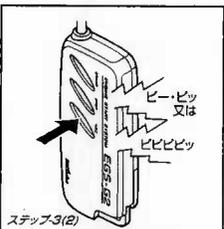


ステップ3(1)

(2)「グロー(予熱時間)」を解除する場合。

リモコンのACCスイッチを押します。本体からピーピーという音がして、グローの設定が解除されたことを知らせ、鳴り止みます。

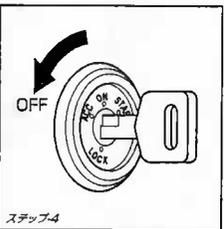
メモ リモコンのACCスイッチは押す毎に、ピー・ピツとビビビ音が交互に鳴ります。



ステップ3(2)

ステップ4 キーをOFFの位置にします。

OK! 以上で始動パターンの変更は終了です。



ステップ4

■電池の交換方法

本商品は新品の電池で約3000回*以上使用出来るように設計されております。使用中、受信距離が短くなってきたら電池を交換して下さい。(使用電池:アルカリボタン電池LR44×2個)又、商品に添付されている電池はテスト用のものですので、3000回以内に電池交換が必要になる場合があります。
*使用温度によっては若干少なくなります。

ステップ1 電池蓋を外します。

マイナスドライバーの先端等で電池蓋の端を引き上げるようにして外して下さい。

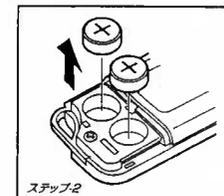


ステップ1

注意 外す際に、マイナスドライバーの先端等でケガをしないよう、ご注意ください。

ステップ2 電池を交換します。

電池のプラス、マイナスの向きに注意して交換して下さい。電池のプラス面が蓋側となります。



ステップ2

注意 電池を交換の際は、2個とも新品の電池に交換して下さい。使用電池:アルカリボタン電池LR44×2個

ステップ3 電池蓋を閉じます。

電池のプラス、マイナスの向きが合っていない場合は、電池蓋がうまく閉じませんので、ご注意ください。

ステップ4 交換後送信テストを行って下さい。

■本体の電源を切る時は

車を車検・整備に出す時や、旅行等により長期間使用しない場合は安全の為、本体のパワースイッチを切って下さい。尚、EGS-G2はメモリー機能を採用しておりますので、次回お使いになる際に再度オートマチック車の登録や各種設定等*をしなくても、パワースイッチをONにするだけでスイッチを切る前と同じ状態で使用出来ます。
*...「キー始動学習機能」、「アイドリング時間の設定」、「始動パターンの切替」

専用ハーネスを外したり、整備の際に車のバッテリー端子を外した場合は、再度オートマチック車の登録からやり直す必要があります。

■リモコンを紛失した時は

リモコンを紛失または修理不可能な破損をした場合は、リモコンのみ購入が出来ます。この場合、新しいリモコンのIDコードを本体に登録する必要があります。詳しくは別売リモコンに付属の説明書をご覧ください。リモコンは、販売店または取扱店へご注文下さい。

メモ リモコンのID登録は本体側の操作で行います。従って本体をお送り頂く必要はありません。本体に登録出来るリモコンは1台分のみとなりますので、元のリモコンは使用出来なくなります。(スペアリモコンとしての設定は出来ません。)